

宮沢賢治「よだかの星」②

名前	

○つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

ある夕方、とうとう、鷹たかがよだかのうちへやって参まりました。

「おい。居いるか。い。まだお前は名前をかえないのか。ずいぶんお前も恥は知らずだな。お前とおれでは、よっぽど人格じんかくがちがうんだよ。たとえばおれは、青いそらをどこまででも飛んで行く。おまえは、曇くもってうすぐらい日か、夜でなくちゃ、出て来ない。それから、おれのくちばしやつめを見る。そして、よくお前のとくらべて見るがいい。」

「鷹さん。それはあんまり無理むりです。私の名前は私が勝か手につけたのではありません。神かみさまから下くださったのです。」

「いいや。おれの名なら、神さまから貰もらったのだと云いってもよかろうが、お前のは、云いわば、おれと夜と、両方りょうほうから借かりてあるんだ。さあ返かえせ。」

「鷹さん。それは無理むりです。」

「無理じゃない。おれがいい名を教おしえてやろう。市蔵いちぞうというんだ。市蔵とな。いい名だろう。そこで、名前を變かえるには、改名かいめいの披露ひろうというものをしないといけない。いいか。それはな、首へ市蔵と書いたふだをぶらさげて、私は以来

